

これが私の指導法

～知的財産の継承～



崇徳小学校
教諭
越後谷 知子

崇徳小に赴任して初めて複式学級を担当しました。一時間の中でロスタイムなくねらいに到達するために、国語と算数だけは毎日四時間分の授

業の準備をし、試行錯誤を繰り返しました。心がけたこととはできるだけフリーになり大事な場面で直接指導に入ることです。たくさんの方の校務分掌をこなしながら、少しでも効率的に準備・授業ができるように考えてきた私は現在次のようにしています。

児童と同じノートで授業計画ねらいとまとめのつながり、解決のためのポイントやキーワードの整理、子どもの思考・書く力に合わせた量や内容を短時間で計画

できます。この作業は、板書計画そのものにもなります。

本時の流れの提示と学習リーダーの訓練

子どもたちは単式学級でも進行的訓練を積み重ねることにより、算数に限っては、どの学習でも「復習→今日の問題→めあての設定→自力解決→学び合い→まとめ→練習→振り返り」という簡単な言葉の提示だけで進行できるようになりま

コミュニケーション能力や中学校英語との関連などについて、国際教養大学の町田智久准教授による講演も予定している。たくさんの先生方に参加していただき、二〇二〇年に控えた英語の「小学3年生からの必修化」「小学5年生からの教科化」に向けて、研修を深めたいと考えている。

我が校の実践

淳城西小学校
教諭 佐藤 弘

『コミュニケーション能力の育成』

本校では今年度、研究主題を「主体的・協働的学びによるコミュニケーション能力の育成」とし、豊かにコミュニケーションする子ども、学び方を選び主体的に学ぶ子どもの育成を目指している。

本校の各教室の学習コーナーには、『答えはみんなで作りあげるもの』という言葉が掲示されている。これは、子どもたちが自分の考えをもつて主体的に学び、発言を繋ぎながらみんなで課題解決に向かっていく、淳西小版アクティ

昨年までの実践で定着してきたこの「淳西小スタイル」を今年度は他教科にも拡大し、課題・問題解決型の学習や、協働的な学びの充実を図っているところである。また昨年度から、県の「拠点校・協力校英語授業改善プログラム」の拠点校に指定され、外国語活動の授業改善に取り組んできた。これは「あきた発！英語コミュニケーション能力育成事業」の一環であり、昨年は電子教材やA・L・Tの活用に関心をもち、今年度は第一中学校と共に十一月に公開研究会を行った。今年度は新たな視点として、国際教養大学の研修講座の活用やT・Tによる授業実践を通じて、教員自身の英語授業力向上も目指している。

今年度の公開研究会は十一月十一日、5・6年生の授業公開の他、



編集後記

豊島区（東京都）、坂東市（茨城県）、箕輪町（長野県）、そして所長訪問と、六月は「訪問月間」でした。授業提案、普段「当たり前の生活」を組んでいく授業の見直しや改善等が行えたことと思います。あと三週間を夏休みですね。一学期のまとめをよろしくね（A）



に取り組めるようになりました。今年度は、学び合いの段階に焦点を絞り、「発表→整理→見付け合い→まとめ合い」の流れによるリーダー・メンバー双方の訓練、発表からまとめ合いまでつなげるための黒板等の活用、教師の働きかけの三つを絡ませて、主体的な学び合いのスタイルを作ることが目標です。このことは、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりとらえ研修を積み重ねたいと思います。